

北海道高等学校文化連盟
第50回全道高等学校放送発表大会兼第73回NHK杯全国高校放送コンテスト北海道大会
開 催 要 項

1. **主 催** 北海道高等学校文化連盟 NHK札幌放送局
2. **後 援** 北海道教育委員会 北海道高等学校長協会
日本放送作家協会北海道支部
3. **主 管** 北海道高等学校文化連盟放送専門部 北海道高等学校文化連盟石狩支部
4. **当 番 校** 札幌龍谷学園高等学校
〒060-0004 札幌市中央区北4条西19丁目1-2 TEL 011-631-4386 FAX 011-614-4775
5. **期 日** 令和8年6月16日（火）～19日（金）

6月16日（火） コンテスト運営委員会・第一回専門委員会・総合受付・公開抽選会・開会式
6月17日（水） アナウンス部門（予選・決勝）・朗読部門（予選・決勝）・創作ラジオドラマ部門・テレビドキュメント部門・講評
6月18日（木） アナウンス・朗読部門結果発表・ラジオドキュメント部門・創作テレビドラマ部門・研究発表部門・講評
6月19日（金） 結果発表・表彰式・NHK校内放送研究集会・閉会式・全国大会参加手続き
6. **会 場** 千歳市民文化センター(北ガス文化ホール)
〒066-0036 千歳市北栄2丁目2番11号 TEL 0123-26-1151
7. **参加資格**
 - (1) 令和8年度北海道高等学校文化連盟に加盟している高等学校および中等教育学校の後期課程に在学中の生徒およびその作品。
 - (2) 特例として、上記（1）に定める生徒以外で、北海道高等学校文化連盟別途規定による大会参加資格を満たした生徒の大会参加を認める。
 - (3) 各部門への参加は、道内各地区高文連の推薦による。
 - (4) 地区大会後の原稿・作品の内容変更（手直し）も可とする。（但し作品名は申込書通りとする）
 - (5) アナウンス部門・朗読部門は、1名1部門とする。
 - (6) ドキュメント部門・創作ドラマ部門は1校につき、各部門1作品に限る。
（1部門に1校から2作品以上出品できない）
 - (7) 番組制作の各部門は、高校生の創作に限る。
8. **参加に関わる禁止事項**
 - (1) 他のコンテスト・コンクール等に参加した作品及びそれを改変・改編した作品の参加は認めない。
 - (2) 上記に関わって判断に迷う場合は、北海道高文連放送専門委員長に問い合わせること。
9. **参加作品の著作権について**
 - (1) 参加作品の著作権は、制作者（応募した学校）に帰属する。
 - (2) 当コンテストに応募した段階で、主催者が行う放送（NコンWEB等での映像配信サービスを含む）、イベントでの上映、ホームページ・印刷物への掲載などについて、応募作品の利用（業務上の必要により編集、切除その他の改変を行うことも可）を許諾したものとす。
 - (3) 当コンテスト終了後、応募作品を他に利用する際は、利用に関わる一切の責任は制作者が負うことになり、主催者は責任を負わない。ただし、全国大会に参加する作品は全国大会終了時まで他の利用ができないので注意すること。

10. マスコミ報道に関する注意事項

高校放送局の活動が、新聞・テレビ等のマスメディアで報道されることは、高校生の放送活動に対する社会の理解や関心を高めることにつながり、校内放送活動の発展に寄与するものである。しかし、一方で、大会で審査を受ける前の作品がテレビやラジオで放送され、多くの人の目に触れることは、大会会場での新鮮な感動を薄れさせ、審査に影響を与えてしまうことも否めない。このことをふまえ、参加校は以下のことに留意する。

- (1) 地区大会前
 - a. 地区大会前にテレビ・ラジオ等で作品の一部または全部が放送されることは差し控える。
- (2) 地区大会後、全道大会前
 - a. 地区大会後に、ローカルニュースなどで作品の一部または全部が報道されることはかまわない。この場合、該当校は、北海道高文連放送専門委員長に報告することとする。
 - b. 全道大会前に、全道向けのテレビ・ラジオ等で作品の一部または全部が放送されることは差し控える。
- (3) 全道大会後、全国大会前
 - a. 全道大会後に、全道向けのテレビ・ラジオ等で作品の一部または全部が放送されることはかまわない。この場合、該当校は、北海道高文連放送専門委員長に報告することとする。
- (4) インターネットサイトへの掲載について
 - a. 各地区や参加校・道内のマスメディアや道内のローカルニュースサイトなどが、地区大会・全道大会の結果や順位を掲載することはかまわない。ただし、学校名・氏名などを掲載する場合は、当該校や当該生徒の許諾を得て行うこと。また、全道大会終了までは、作品のタイトルがサイトに掲載されることは避けること。
 - b. 全国大会終了まで、参加作品そのもののネット配信は、作品の一部であっても差し控える。全国大会後であっても、ネット配信する際は、取材先や著作権者への許諾を必ず得る。
 - c. **北海道高等学校文化連盟放送専門部は、本大会の参加者の学校名・氏名・作品名および入賞順位、大会中の写真や応募作品などをサイトへの掲載のために利用できるものとする。**
- (5) 報道機関・関係機関への情報提供について
 - a. 北海道高等学校文化連盟放送専門部は、報道機関・高文連などの関係機関に本大会の参加者の学校名・氏名・作品名および入賞順位、大会中の写真などの情報を提供する。

11. 参加人数・参加本数

アナウンス部門・朗読部門				ラジオドキュメント部門・創作ラジオドラマ部門 テレビドキュメント部門・創作テレビドラマ部門		ラジオドキュメント部門 奨励枠
地区予選部門参加人数	人数	地区予選部門参加人数	人数	地区予選部門参加校数	本数	
151名以上	19人	61名～70名	10人	28校 以上	10本	各地区の判断で最大 1本まで加算できる。 推薦に当たっては各支部で審議する
141名～150名	18人	51名～60名	9人	24校～27校	9本	
131名～140名	17人	41名～50名	8人	19校～23校	8本	
121名～130名	16人	31名～40名	7人	15校～18校	7本	
111名～120名	15人	21名～30名	6人	11校～14校	6本	
101名～110名	14人	16名～20名	5人	8校～10校	5本	
91名～100名	13人	11名～15名	4人	5校～7校	4本	
81名～90名	12人	10名 以下	3人	4校 以下	3本	
71名～80名	11人					

※研究発表部門は地区推薦とし、特に参加数の制限を設けない。

※全道大会の当番校は地区の参加数・順位に関係なく各部門に1作品または1名が参加できる。

ただし、当番校の作品または生徒は必ず地区予選に参加すること。また、地区予選において当番校が全道大会に参加できる順位に入った場合は他の繰上げ参加はできない。

12. 参加費

- | | | |
|-------------------------------|--------|--------|
| (1) アナウンス部門 | 1名につき | 5,000円 |
| (2) 朗読部門 | 1名につき | 5,000円 |
| (3) 番組部門（ラジオドキュメント・テレビドキュメント） | 1作品につき | 6,000円 |
| (4) 創作ドラマ部門（ラジオ・テレビ） | 1作品につき | 6,000円 |
| (5) 研究発表部門 | 1校につき | 6,000円 |

13. 参加申込み

(1) 参加申込書

各地区の高文連よりの推薦、参加申込みは各地区ごとにまとめ、**5月27日(水)必着**とし、支部代表専門委員に配布する参加申込書Excelデータを、大会事務局のメールアドレスに送信する。

地区大会が締切日以降に行われる場合は、事前に事務局に連絡すること。

(2) 参加料

支部代表専門委員は地区ごとにまとめ、次の口座に振り込む。**5月27日(水)必着**とする。

※口座については、後日連絡します。

(3) 原稿(アナウンス・朗読)・番組進行表(ラジオ・テレビ)・研究発表進行表

参加校が、大会第1日目に要項で指示された部数を発表順の抽選後に提出すること。

(4) 各部門のデータ

ラジオ番組部門の音声データ、テレビ番組部門の映像データは6月9日(火)17時までに指定の方法で提出すること。なお、提出後のデータの変更はできません。

a. ファイル形式

(ア) 音声(ラジオドキュメント・創作ラジオドラマ) : MP3形式

(イ) 映像(テレビドキュメント・創作テレビドラマ) : MP4形式

アスペクト比 16:9、H.264コーデック

フルHD画質以下【<解像度 1080[1920×1080]>以下】

フレームレート 29.97fps (30fps)のみ

b. ファイル名

「部門名_学校名_作品名」(部門は省略せず、学校名は4文字程度の略記)

例 ラジオドキュメント_札幌放送_タイトル

c. 提出方法

Webサービスを利用する。詳しくは、別紙で用意し参加校に連絡する。

d. 提出先

zendo_entry@zendo-hoso.net

14. 宿泊・弁当申込み

宿泊・弁当の斡旋はしません。

15. 大会事務局(当番校) 札幌龍谷学園高等学校

〒060-0004 北海道札幌市中央区北4条西19丁目1-2

TEL 011-631-4386

FAX 011-614-4775

*当番校担当者 相 蘇 孝 哉

北海道高等学校文化連盟第50回全道高等学校放送発表大会 実施要領

第73回 NHK杯全国高校放送コンテスト北海道大会

1. 目 的

現代に生きる高校生の豊かな人間性の育成と、未来への展望をもつ人間としての成長をめざし、校内放送活動をメディアリテラシーの実践として位置づけ、情報発信としての放送活動の発展をはかる。

2. ね ら い

- (1) 美しく豊かな日本語を大切にする心情を育て、あわせて話す力、表現する力を高める。
- (2) 情報発信者としての自覚を高め、あわせて創造性を育てる。
- (3) 社会との関わりに目を向け、放送の果たす役割を学ぶ。
- (4) 人間尊重の心を培い、国際理解を深める放送の働きを確かめる。
- (5) 学園生活の中にうるおいを育て、心のふれあいの場をつくる。

3. 研究主題（統一テーマ） 「私たち高校生と放送」

高校生の連帯、先生方とのきずな、地域や社会への結びつきを、日常生活の中で考え、主体的に放送活動に展開すること。

4. 日 程

第1日 6月16日（火）

- 10:00～10:30 コンテスト運営委員会
- 13:00～13:30 総合受付
- 13:30～17:00 公開抽選・開会式・オリエンテーション
- 17:00～ 発表順公表
- 13:00～15:30 第1回専門委員会

第2日 6月17日（水）

- 9:15～12:30 アナウンス部門予選審査
- 9:15～13:50 朗読部門予選審査
- 15:00～18:30 アナウンス・朗読部門決勝審査
- 9:30～18:30 創作ラジオドラマ部門審査・講評
- 9:30～17:30 テレビドキュメント部門審査・講評

第3日 6月18日（木）

- 9:15～ 9:30 アナウンス・朗読部門講評、結果発表
- 9:30～16:30 アナウンス・朗読部門全国大会出場者合同練習
- 9:30～17:00 ラジオドキュメント部門審査・講評
- 9:30～17:00 創作テレビドラマ部門審査・講評
- 09:30～17:00 研究発表部門・講評

第4日 6月19日（金）

- 9:15～10:00 結果発表・表彰式
- 10:00～12:30 NHK校内放送研究集会・閉会式
- 10:00～12:30 全国大会参加手続

※アナウンス・朗読部門については、予選・決勝方式で行う。

以上は大まかな日程であって、参加数等によって時間や会場の変更はありうる。

※1日目の総合受付に間に合わない学校については、事前に放送専門部事務局まで連絡すること。

5. 審査員（予定）

▽アナウンス部門

NHKアナウンサー 1名

専門家 1名

各地区代表審査員 5名

▽朗 読 部 門

NHKアナウンサー 1名

専門家 1名

各地区代表審査員 5名

▽番 組 部 門

NHKディレクター 1名

放送作家 1名

各地区代表審査員 5名

▽研究発表部門

高等学校長協会 1名

各地区代表審査員 6名

6. 表彰

[表彰数（各部門）]

※入賞のみ全国大会に推薦

部門	アナウンス	朗 読	ラジオドキュメント	テレビドキュメント	創作ラジオドラマ	創作テレビドラマ	研究発表
表彰数	20人 (入賞12 奨励賞8)	20人 (入賞12 奨励賞8)	10本 (入賞8 奨励賞2)	10本 (入賞8 奨励賞2)	6本 (入賞4 奨励賞2)	6本 (入賞4 奨励賞2)	6本 (入賞4 奨励賞2)

入賞は賞状と楯、奨励賞は賞状

▽各部門に最優秀として、下記の賞を贈る。

アナウンス部門・・・北海道高等学校文化連盟放送専門部長賞

朗 読 部 門・・・北海道高等学校文化連盟放送専門部長賞

ラジオドキュメント部門・・・北海道高等学校文化連盟放送専門部長賞

テレビドキュメント部門・・・北海道高等学校文化連盟放送専門部長賞

創作ラジオドラマ部門・・・日本放送作家協会北海道支部長賞

創作テレビドラマ部門・・・日本放送作家協会北海道支部長賞

研 究 発 表 部 門・・・北海道高等学校文化連盟放送専門部長賞

▽総合賞として、下記の賞を贈る。

最優秀賞・・・・・・・・・・NHK杯と賞状

優秀賞（2位・3位）・・・・・・・・賞状と楯

[総合賞得点基準]

	表彰数	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
アナウンス	20	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
朗 読	20	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
ラジオドキュメント	10	20	18	16	14	12	10	8	6	4	2
テレビドキュメント	10	20	18	16	14	12	10	8	6	4	2
創作ラジオドラマ	6	20	18	16	14	12	10	※アナウンス・朗読の11位から 20位は10位と同じ点とする。			
創作テレビドラマ	6	20	18	16	14	12	10				
研 究 発 表	6	20	18	16	14	12	10				

7. 北海道代表（各部門）

上記の表彰校から下記の人（本）数を入賞順位にしたがい北海道代表としてNHK杯全国高校放送コンテスト全国大会に推薦する。

[全国大会推薦人（本）数]

部門	アナウンス	朗 読	ラジオドキュメント	テレビドキュメント	創作ラジオドラマ	創作テレビドラマ	研究発表
全国推薦	12人	12人	8本	8本	4本	4本	4本

8. その他

- (1) 要項・要領についての問い合わせは、放送専門部事務局へ。
(北海道札幌琴似工業高等学校 前田秀明
TEL 011-661-3251 FAX 011-661-3252 メール zendohosojimu@gmail.com)
- (2) 大会の運営についての問い合わせは、大会事務局（当番校）へ。
(札幌龍谷学園高等学校 相蘇孝哉 TEL 011-631-4386 FAX 011-614-4775)
- (3) 全国大会の要項と原稿・番組進行表の書式・各種書類・テストパターンは下記の全国大会のサイトからダウンロードして下さい。**※各書類は、必ず今年度の様式を使ってください。**
https://hosokyoiku.jp/ncon_h/info/
- (4) 大会に関する各種情報は、下記の「北海道高等学校文化連盟放送専門部」のサイトに随時掲載します。
<https://zendo-hoso.net/>

今大会の注意事項・変更点

<変更点>

1. 参加費の改定について

ご負担をおかけしますが、何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。

2. 校内放送研究発表会（研究発表部門）の変更点

校内放送研究発表会（研究発表部門）では以下の点が変更になります。

- (1) 校内放送研究発表会（研究発表部門）の発表者数の上限が3人から2人に変更になります。
- (2) レーザーポインタの貸し出しはなくなりますが、持ち込みは可能です。
- (3) 全国大会では発表中の会場の消灯はなくなります。

3. 全道大会の番組部門におけるトライアルの実施について

今大会より番組部門においてもトライアルにて審査基準の打ち合わせを行います。

<注意点>

4. 音響について

一部の会場では、ステレオ制作作品でも左右の音声を加算してモノラルで再生します。左右のチャンネルが逆相（位相反転）になっていると、音が極端に小さく、または無音になったりするなど、正しく再生されない場合があります。音声・映像作品ともに、提出前には作品を視聴して、**音声はモノラル環境でも問題なく再生できることを確認**してください。

主催者側では作品の修正を行いませんので、提出前のご確認をお願いします。

<主な確認方法>

- ・音声ミキサーや編集ソフトで「位相反転」スイッチがオンになっていないか。
- ・編集ソフトや波形モニターで左右のチャンネルで音声波形が反転していないか。
- ・作品視聴時に音声ミキサーの「MONO」や「L+R」ボタンを押して再生し、音量が極端に小さくならないか。
- ・作品視聴時に左右のスピーカーを近づけて中央で聞いたときに、音量が極端に小さくならないか。

9. 各部門の参加規定・審査基準

【1】アナウンス部門

1. アナウンス部門規定

- (1) アナウンスする内容は自校の校内放送に使用するものとし、原稿を生徒が自作したものに限る。(生成AIによる原稿作成は不可とする。)
- (2) アナウンスのはじめに、番号と氏名を読むこととし(学校名は読まない)、時間はそれらを含め、**1分10秒以上1分30秒以内**とする。
- (3) 大会初日に提出するアナウンス原稿は、ダウンロードした様式1に従って、**仕上がりA5判で4部**(コピー可)を大会第1日目の公開抽選の際に提出する。原稿の様式は、必ず全国大会のWebサイトより**第73回大会のもの**をダウンロードする。
- (4) 取材等を行う場合、大会で発表することについて必ず許諾を得るなどして人権に配慮する(文書の添付は不要。文書で許諾を受ける必要がある場合は、様式2-5を使用)著作物使用の許諾については、原稿末尾に文書添付等の処理をする。

2. アナウンス部門予選

- (1) 出場者は、受付で提出した自作原稿をアナウンスする。
- (2) 審査は、専門家2名(うち1名はNHKアナウンサー)と各地区代表審査員5名で行う。
- (3) 予選の上位20名を決勝進出者とする。

3. アナウンス部門審査基準

- (1) 研究主題「私たち高校生と放送」のテーマに沿った内容となっており、自校の校内放送に使用する内容であること。
- (2) 審査の視点
 - a. 内容
 - (ア) 素材の選び方は適切であるか。
 - (イ) 文章表現は適切であるか。
 - b. アナウンスの技術
 - (ア) 自然な発声で聞き手に伝わるようにアナウンスしているか。
 - ・発声 ・発音 ・マイクの使い方
 - (イ) 正しく意味を伝える表現ができているか。
 - ・内容把握・イントネーション・言葉の立て方(プロミネンス)・アクセント
 - (ウ) 間(ポーズ)は適切か。
 - ・テンポ・ポーズ
- (3) 点数は100点法の1点刻みとし、aとbの項に留意して総合的に採点する。
- (4) 各地区代表5名の審査点のうち、最高点と最低点を除き、残り3名の審査点と専門家2名の審査点を合計したもので順位を決定する。

4. アナウンス部門決勝

- (1) 出場者は、課題原稿をアナウンスする。課題

原稿は、大会第1日目の総合受付で渡されるプログラムに掲載されている。

- (2) 審査は専門家4名(うち2名はNHKアナウンサー)と各地区代表審査員4名で行う。
- (3) 審査基準は、予選審査基準のb.に準ずる。
- (4) 点数は100点法の1点刻みとし、最高点と最低点を除いた残り6名の審査点の合計点に予選の得点を加えたもので順位を決定する。
- (5) 決勝の上位12名を北海道代表として、全国大会に推薦する。

5. アナウンス部門規定違反

- (1) ±1秒を越える時間規定違反については、各審査員の点数から5点ずつ減点する。
- (2) テーマに沿っていない内容や、校内放送に適さない原稿、著作権処理の不備等については、大会中に大会本部で確認し、出場者に直接指導を行う場合がある。この指導を受けたこと自体は、全道大会での点数には影響しないものとする。
- (3) その他の規定違反等への対処については、大会本部で審議し決定する。

6. アナウンス部門全国大会参加手続き

- (1) 全国大会参加料1名につき**7,000円**は、全道大会第4日目の全国大会参加手続き時に納入する。
- (2) 手続きの詳細については、全道大会第4日目の全国大会参加手続きの際に連絡する。

【2】朗読部門

1. 朗読部門参加規定

- (1) 次の指定作品の中から1編を選び、自分の表現したい部分を抽出して朗読する。作品の改変は認めない。**※抽出は文頭から開始し、文末で終了すること。一文途中の開始や終了は改変とみなす。本文中の()内も読むこと。(読み仮名・注を除く)**

朗読指定作品

- 1) 織田作之助 『夫婦善哉』 (新潮文庫刊)
- 2) 三國万里子 『編めば編むほどわたしはわたしになっていった』 (新潮文庫刊)
- 3) 原田マハ 『リーチ先生』 (集英社文庫刊)
- 4) セアラ・オーン・ジュエット 著/河島 弘美 訳 『とんがりモミの木の郷 他五篇』 (岩波文庫刊)
- 5) 紫式部 『源氏物語』より「夕顔」
(出版社は問わない)

注意 電子書籍不可。1)、2)、4)は収録作品のいずれを選んでも良い。4)は他の出版社、翻訳者のものは不可。5)は現代語訳不可。

- (2) 朗読のはじめに、番号、氏名、作者名(訳者名は読まない)、作品名を読むこととし(学校名は読まない)、時間はそれらを含め**1分30秒以上2分以内**とする。1)、2)、4)は短編名、5)は『源氏物語』を作品名として読むこと。
- (3) 大会初日に提出する朗読原稿は、ダウンロードした様式1に従い、**仕上がりA5判で4部**(コピー可)を大会第1日目の公開抽選の際に提出する。**1)~4)については、原稿表紙に抽出部分の開始ページを記入する。**原稿の様式は、必ず全国大会のWebサイトより**第73回大会のものをダウンロード**する。

2. 朗読部門予選

- (1) 出場者は、受付で提出した指定作品から抽出した原稿を朗読する。
- (2) 審査は専門家2名(うち1名はNHKアナウンサー)と各地区代表審査員5名で行う。
- (3) 予選の上位20名を決勝進出者とする。

3. 朗読部門審査基準

- (1) 審査の視点
 - a. 内容
 - (ア) 作品の選定は適当であるか。
 - (イ) 抽出部分は適切か。
 - b. 朗読の技術
 - (ア) 内容表現上、声の出し方や言葉の運びが自然で適切か。
 - ・発声・発音・マイクの使い方
 - (イ) 正しく意味を伝える表現ができているか。
 - ・内容把握・イントネーション・言葉の立て方(プロミネンス)・アクセント

- (ウ) 間(ポーズ)は適切か
 - ・テンポ・ポーズ

- (2) 点数は100点法の1点刻みとし、aとbの項に留意して総合的に採点する。
- (3) 各地区代表5名の審査点のうち、最高点と最低点を除き、残り3名の審査点と専門家2名の審査点を合計したもので順位を決定する。

4. 朗読部門決勝

- (1) 出場者は、課題原稿を朗読する。課題原稿は、大会第1日目の総合受付で渡されるプログラムに掲載されている。
- (2) 審査は専門家4名(うち2名はNHKアナウンサー)と各地区代表審査員4名で行う。
- (3) 審査基準は、予選審査基準のb.に準ずる。
- (4) 点数は100点法の1点刻みとし、最高点と最低点を除いた残り6名の審査点の合計点に予選の得点を加えたもので順位を決定する。
- (5) 決勝の上位12名を北海道代表として、全国大会に推薦する。

5. 朗読部門規定違反

- (1) ±1秒を越える時間規定違反については、各審査員の点数から5点ずつ減点する。
- (2) 提出原稿の不備等については、大会中に大会本部で確認し、出場者に直接指導を行う場合がある。この指導を受けたこと自体は、全道大会での点数には影響しないものとする。
- (3) その他の規定違反等への対処については、大会本部で審議し決定する。

6. 朗読部門全国大会参加手続き

- (1) 全国大会参加料1名につき**7,000円**は、全道大会第4日目の全国大会参加手続き時に納入する。
- (2) 手続きの詳細については、全道大会第4日目の全国大会参加手続きの際に連絡する。

【3】ラジオドキュメント部門

番組制作にあたっては必ず放送教育ネットワークWebサイト内の「番組部門規定 細則」を見て、必要な権利処理を済ませて提出すること。

1. ラジオドキュメント部門規定

- (1) 高校生活や地域社会とのかかわりの中に広く素材を求め、ラジオの特性を生かして制作された、高校生としての視点を大切にしたい、独創的な作品であること。
- (2) 様式規定に従った番組進行表を作成する。
- (3) 参加作品はコンテスト審査のほか、NHKの番組で放送したりイベントやWebサイト、印刷物などに利用したりすることがある。番組の出演者や登場する著作物等の権利者には利用のための許諾を確実に得ること。
- (4) 制作にあたってはP15『番組制作について(詳細は全国大会の「番組部門規定 細則」参照)』を必ず読むこと。
- (5) 作品は、**6分30秒以上7分以内**とする。作品の最後には「制作は〇〇高等学校(放送局・部・委員会等)でした。」というクレジットコールを入れる。**クレジットコールには、クレジットコール以外の音声は入れない。また、作品の前後に2秒程度のブランク(無音)を入れること。**
- (6) 計時は、**最初の音からクレジットコールの終わり(…でした)まで**とする。
- (7) 作品データは、**音声ファイルMP3形式**で提出する。
- (8) 作品の再生操作は部門担当が行うが、音量調整は参加校の代表者自身が行う。
- (9) 作品は事前に、タイム違反がないかなどをチェックしておく。

2. ラジオドキュメント部門審査基準

- (1) 研究主題「私たち高校生と放送」のテーマに沿った、高校生に向けた内容であること。
- (2) 審査の視点
 - a. 企画・内容
 - (ア) 「私たち高校生と放送」という統一テーマを理解し、高校生をとりまく素材の中から適切なものを求め、効果的に表現しているか。
 - (イ) ラジオの特性を活かした作品になっているか。
 - b. 制作技術
 - (ア) 構成・演出
 - (イ) 取材の方法や努力
 - (ウ) ナレーション
 - (エ) 技術
 - ・録音の技術
 - ・編集の技術
 - ・音楽や効果音の使い方など
- (3) 点数は100点法の1点刻みとし、aとbの項に留意して総合的に採点する。
- (4) 各地区代表5名の審査点のうち、最高点と最低点を除き、残り3名の審査点と専門家2名の審査点を合計したもので順位を決定する。

3. ラジオドキュメント部門規定違反

- (1) ±1秒を越える時間規定違反については、各審査員の点数から5点ずつ減点する。
- (2) 著作権処理の不備、番組進行表の不備等については、大会中に大会本部で確認し、出場者に直接指導を行う場合がある。
- (3) その他の規定違反等への対処については、大会本部で審議し決定する。

4. ラジオドキュメント部門様式規定

番組進行表は、P16の『第73回NHK杯全国放送コンテスト北海道大会 様式規定』を参照して作成すること。

A4判でプリントアウトして、

- ・左上で綴じた進行表の冊子3部
- ・番組進行表の表紙・制作意図・スタッフのページ7枚

を**大会第1日目の公開抽選会の際に提出する。**

5. ラジオドキュメント部門全国大会参加手続き

- (1) 全国大会参加料**11,000円**は、全道大会第4日目の全国大会参加手続き時に納入する。
- (2) 詳細については、全道大会第4日目の全国大会参加手続きの際に連絡する。

【4】テレビドキュメント部門

番組制作にあたっては必ず放送教育ネットワークWebサイト内の「番組部門規定 細則」を見て、必要な権利処理を済ませて提出すること。

1. テレビドキュメント部門参加規定

- (1) 高校生活や地域社会とのかかわりの中に広く素材を求め、テレビの特性を生かして制作された、高校生としての視点を大切にしたい、独創的な作品であること。
- (2) 様式規定に従った番組進行表を作成する。
- (3) 参加作品はコンテスト審査のほか、NHKの番組で放送したりイベントやWebサイト、印刷物などに利用したりすることがある。番組の出演者や登場する著作物等の権利者には利用のための許諾を確実に得ること。
- (4) 制作にあたってはP15『番組制作について(詳細は全国大会の「番組部門規定 細則」参照)』を必ず読むこと。
- (5) 作品は、**7分30秒以上8分以内とする。作品の最後には「制作〇〇高校(放送局・部・委員会等)」のクレジットタイトルを入れる。**また、様式3のテストパターンを**作品の前後に5秒ずつ**入れること。様式3のテストパターンは、全国大会のWebサイトよりダウンロードする。テストパターンを改変してはいけない。テストパターンにBGMが入ってはいけない。
- (6) 計時は、**初めのテストパターンの終了時から、終わりのテストパターンの始まりまで**とする。
- (7) **テレビ放送番組などの再録を主体としたものは認めない。**
- (8) 作品は次の形式で提出する。
MP4形式(アスペクト比16:9、H.264コーデック、フルHD画質以下【解像度1080[1920×1080]以下】、フレームレート29.97fps(30fps)のみ。)
- (9) 作品の再生操作は部門担当者が行うが、音量調整は参加校の代表者自身が行う。
- (10) 作品は事前に、タイム違反がないかなどをチェックしておく。

2. テレビドキュメント部門審査基準

- (1) 研究主題「私たち高校生と放送」のテーマに沿った、高校生に向けた内容であること。
- (2) 審査の視点
 - a. 企画・内容
 - (ア) 「私たち高校生と放送」という統一テーマを理解し、高校生をとりまく素材の中から適切なものを求め、効果的に表現しているか。
 - (イ) テレビの特性を活かした作品になっているか。
 - b. 制作技術
 - (ア) 構成・演出
 - (イ) 取材の方法や努力
 - (ウ) ナレーション
 - (エ) 技術

- ・撮影・録音の技術
 - ・編集の技術
 - ・音楽や効果音の使い方 など
- (3) 点数は100点法の1点刻みとし、aとbの項に留意して総合的に採点する。
 - (4) 各地区代表5名の審査点のうち、最高点と最低点を除き、残り3名の審査点と専門家2名の審査点を合計したもので順位を決定する。

3. テレビドキュメント部門規定違反

- (1) ±1秒を越える時間規定違反については、各審査員の点数から5点ずつ減点する。
- (2) 著作権処理の不備、番組進行表の不備等については、大会中に大会本部で確認し、出場者に直接指導を行う場合がある。
- (3) その他の規定違反等への対処については、大会本部で審議し決定する。

4. テレビドキュメント部門様式規定

番組進行表は、P16の『第73回NHK杯全国放送コンテスト北海道大会 様式規定』を参照して作成すること。

- A4判でプリントアウトして、
- ・左上で綴じた進行表の冊子3部
 - ・番組進行表の表紙・制作意図・スタッフのページ7枚
- を**大会第1日目の公開抽選会の際に提出する。**

5. テレビドキュメント部門全国大会参加手続き

- (1) 全国大会参加料**11,000円**は、全道大会第4日目の全国大会参加手続き時に納入する。
- (2) 詳細については、全道大会第4日目の全国大会参加手続きの際に連絡する。

【5】創作ラジオドラマ部門

番組制作にあたっては必ず放送教育ネットワークWebサイトの「番組部門規定 細則」を見て、必要な権利処理を済ませて提出すること。

1. 創作ラジオドラマ部門参加規定

- (1) 脚本は参加資格を有する自校生徒のオリジナル作品であること。生成AIを使って作品を作ることにはできない。文芸作品などからの脚色や改作は認めない。
- (2) 様式規定に従った番組進行表を作成する。
- (3) 参加作品はコンテスト審査のほか、NHKの番組で放送したりイベントやWebサイト、印刷物などに利用したりすることがある。番組の出演者や登場する著作物等の権利者には利用のための許諾を確実に得ること。
- (4) 制作にあたってはP15『番組制作について(詳細は全国大会の「番組部門規定 細則」参照)』を必ず読むこと。
- (5) 作品は、8分以内とする。作品の最後には「制作は〇〇高等学校(放送局・部・委員会等)でした。」というクレジットコールを入れる。クレジットコールには、クレジットコール以外の音声は入れない。また、作品の前後に2秒程度のブランク(無音)を入れること。
- (6) 計時は、最初の音からクレジットコールの終わり(…でした)までとする。
- (7) 出演者は、自校生徒に限る。ただし、中高一貫校については、高校生に該当する学年の生徒に限る。
- (8) 作品データは、音声ファイルMP3形式で提出する。
- (9) 作品の再生操作は部門担当者が行うが、音量調整は参加校の代表者自身が行う。
- (10) 作品は事前に、タイム違反がないかなどをチェックしておく。

2. 創作ラジオドラマ部門審査基準

- (1) 研究主題「私たち高校生と放送」のテーマに沿った、高校生に向けた内容であること。
- (2) 審査の視点
 - a. 企画・内容
 - (ア) 原作・脚本・演出などにオリジナリティがあるか。
 - (イ) ラジオの特性を活かした作品になっているか。
 - b. 制作技術
 - (ア) 構成・演出
 - (イ) 取材の方法や努力
 - (ウ) 演技
 - (エ) 技術
 - ・録音の技術
 - ・編集の技術
 - ・音楽や効果音の使い方 など
- (3) 点数は100点法の1点刻みとし、aとbの項に留意して総合的に採点する。

- (4) 各地区代表5名の審査点のうち、最高点と最低点を除き、残り3名の審査点と専門家2名の審査点を合計したもので順位を決定する。

3. 創作ラジオドラマ部門規定違反

- (1) +1秒を越える時間規定違反については、各審査員の点数から5点ずつ減点する。
- (2) 著作権処理の不備、番組進行表の不備等については、大会中に大会本部で確認し、出場者に直接指導を行う場合がある。
- (3) その他の規定違反等への対処については、大会本部で審議し決定する。

4. 創作ラジオドラマ部門様式規定

番組進行表は、P16の『第73回NHK杯全国放送コンテスト北海道大会 様式規定』を参照して作成すること。

A4判でプリントアウトして、

- ・左上で綴じた進行表の冊子3部
- ・番組進行表の表紙・制作意図・スタッフのページを7枚

を大会第1日目の公開抽選会の際に提出する。

5. 創作ラジオドラマ部門全国大会参加手続き

- (1) 全国大会参加料11,000円は、全道大会第4日目の全国大会参加手続き時に納入する。
- (2) 詳細については、全道大会第4日目の全国大会参加手続きの際に連絡する。

【6】創作テレビドラマ部門

番組制作にあたっては必ず放送教育ネットワークWebサイトの「番組部門規定 細則」を見て、必要な権利処理を済ませて提出すること。

1. 創作テレビドラマ部門参加規定

- (1) 脚本は参加資格を有する自校生徒のオリジナル作品であること。生成AIを使って作品を作ることにはできない。文芸作品などからの脚色や改作は認めない。
- (2) 様式規定に従った番組進行表を作成する。
- (3) 参加作品はコンテスト審査のほか、NHKの番組で放送したりイベントやWebサイト、印刷物などに利用したりすることがある。番組の出演者や登場する著作物等の権利者には利用のための許諾を確実に得ること。
- (4) 制作にあたってはP15『番組制作について（詳細は全国大会の「番組部門規定 細則」参照）』を必ず読むこと。
- (5) 作品は、8分以内とする。作品の最後には「制作〇〇高校（放送局・部・委員会等）」のクレジットタイトルを入れる。また、様式3のテストパターンを作品の前後に5秒ずつ入れること。様式3のテストパターンは、全国大会のWebサイトよりダウンロードする。テストパターンは改変してはいけない。テストパターンにBGMが入ってはいけない。
- (6) 計時は、初めのテストパターンの終了時から、終わりのテストパターンの始まりまでとする。
- (7) 出演者は、自校生徒に限る。ただし、中高一貫校については、高校生に該当する学年の生徒に限る。
- (8) 作品は次の形式で提出する。
MP4形式（アスペクト比16:9、H. 264コーデック、フルHD画質以下【解像度1080[1920×1080]以下】、フレームレート29.97fps(30fps)のみ。）
- (9) 作品の再生操作は部門担当者が行うが、音量調整は参加校の代表者自身が行う。
- (10) 作品は事前に、タイム違反がないかなどをチェックしておく。

2. 創作テレビドラマ部門審査基準

- (1) 研究主題「私たち高校生と放送」のテーマに沿った、高校生に向けた内容であること。
- (2) 審査の視点
 - a. 企画・内容
 - (ア) 原作・脚本・演出などにオリジナリティがあるか。
 - (イ) テレビの特性を活かした作品になっているか。
 - b. 制作技術
 - (ア) 構成・演出
 - (イ) 取材の方法や努力
 - (ウ) 演技
 - (エ) 技術
 - ・撮影・録音の技術

- ・編集の技術
- ・音楽や効果音の使い方 など

- (3) 点数は100点法の1点刻みとし、aとbの項に留意して総合的に採点する。
- (4) 各地区代表5名の審査点のうち、最高点と最低点を除き、残り3名の審査点と専門家2名の審査点を合計したもので順位を決定する。

3. 創作テレビドラマ部門規定違反

- (1) +1秒を越える時間規定違反については、各審査員の点数から5点ずつ減点する。
- (2) 著作権処理の不備、番組進行表の不備等については、大会中に大会本部で確認し、出場者に直接指導を行う場合がある。
- (3) その他の規定違反等への対処については、大会本部で審議し決定する。

4. 創作テレビドラマ部門番組様式規定

番組進行表は、P16の『第73回NHK杯全国放送コンテスト北海道大会 様式規定』を参照して作成すること。

- A4判でプリントアウトして、
 - ・左上で綴じた進行表の冊子3部
 - ・番組進行表の表紙・制作意図・スタッフのページ7枚

を大会第1日目の公開抽選会の際に提出する。

5. 創作テレビドラマ部門全国大会参加手続き

- (1) 全国大会参加料11,000円は、全道大会第4日目の全国大会参加手続き時に納入する。
- (2) 詳細については、全道大会第4日目の全国大会参加手続きの際に連絡する。

【7】研究発表部門

1. 研究発表部門目的

日常の校内放送活動の中から、問題解決の取り組みや創意工夫などを発表する機会を設ける。各学校が持つ諸問題を共有し、共に解決することを目的とする。

2. 研究発表部門発表について

- (1) 本発表会は発表技術を競うものではない。
発表者は以下を重視すること。
研究内容の普遍性(多くの学校に通用する内容)
研究発表の有用性(校内放送の現場で活用可能)
研究結果の完成度(結論への到達)
過度な演出ではなく、研究内容を適切に伝える工夫をする。
- (2) 発表内容は、校内放送に関するものに限る。
発表の種類について、以下の3類型を設定する。
I類 = アナウンスや朗読に関する研究
II類 = 番組制作に関する研究
III類 = その他(学校行事運営や校内放送など)
- (3) 発表内容は今回のコンテストの各部門にエントリーしているものに関する内容、および類似の内容であってはいけない。今回のコンテストに参加している作品の上映はたとえ一部であっても一切認めない。
- (4) 発表は、PowerPointを使用したスクリーン1面のプレゼンテーションで行う。発表時間は8分以内とし、発表者は機器操作担当者を含めて**2人**までとする。**録音・録画を主体とする発表は認めない。**発表は主催者が用意したノートパソコンを使って発表を行う。発表者は発表用のPowerPointデータの作成にあたり、他のパソコンでプレゼンテーションを行うことを想定して**ファイルにフォントを埋め込んでおくこと。**
- (5) 発表用のPowerPointのデータ容量は**300MB以内**とする。
- (6) 発表は公開を前提にしているため、提示する資料は必要な権利処理を行うこと。メーカー名、商品名の写り込み、特定の商品のPRを避けること。著作権処理が必要なもの(BGM、写真など)については、番組部門と同様の処理を行う。
- (7) **会場には発表用にマイク2本を用意する。**マイクにはマイクスタンドを付ける。

※ 発表時に利用する音声データや映像データはすべてPowerPointに挿入してください。

3. 研究発表部門審査基準

- (1) 研究発表部門は、発表の技術を競うものではなく、問題解決の結論を重視するものである。審査についてはその視点に立ち、発表全体を総合的に評価する。
- (2) 点数は100点法の1点刻みとする。
- (3) 7名の審査点のうち、最高点と最低点を除き、

残り5名の審査点を合計したもので順位を決定する。

4. 発表の進行について

- (1) 発表会場では研究した大きな作品を組み立てたり設置したり展示したりすることは、時間とスペースがないのでできない。発表時間内であれば、印刷物の配布や、両手で掲げることのできる大きさのものの提示をしてもかまわない。
- (2) 持ち込んだ機材を、会場設備に接続してはならない。準備された機器のみで発表すること。

※ **発表時、PCはオフラインでの操作となるため外部のWebサイトへのリンクはできません。**

5. 研究発表部門研究発表進行表規定

番組進行表は、P16の『第73回NHK杯全国放送コンテスト北海道大会 様式規定』を参照して作成すること。A4判でプリントアウトし、左上で綴じた**研究発表部門の進行表3部を大会第1日目の公開抽選会の際に提出する。**

6. 研究発表部門規定違反

- (1) +10秒を越える時間規定違反については、各審査員の点数から5点ずつ減点する。
- (2) 著作権処理の不備、番組進行表の不備等については、大会中に大会本部で確認し、出場者に直接指導を行う場合がある。
- (3) その他の規定違反等への対処については、大会本部で審議し決定する。

7. 研究発表部門全国大会参加手続き

- (1) 全国大会参加料**6,000円**は、全道大会第4日目の全国大会参加手続き時に納入する。
- (2) 詳細については、全道大会第4日目の全国大会参加手続きの際に連絡する。

【8】データ提出について

1. 提出期日

令和8年6月9日（火）17:00まで

2. 提出するデータ

ラジオ番組部門のMP3データ

テレビ番組部門のMP4データ

アスペクト比 16:9、H.264 コーデック、フル
HD 画質以下【(解像度 1080[1920×1080]) 以
下】、フレームレート 29.97fps (30fps)のみ

3. ファイル名

「部門名_学校名_作品名」（部門は省略せず、
学校名は4文字程度の略記）

例 ラジオドキュメント_札幌放送_タイトル

4. 提出方法

Web サービスを利用する。詳しくは、別紙で用
意し参加校にメールで連絡する。

※支部代表専門委員は参加申込書に全道大会参加
校顧問への連絡用メールアドレスを忘れずに記
入してください。

5. 提出先

zendo_entry@zendo-hoso.net

【9】抽選会に参加できない場合

アナウンス・朗読の原稿、ラジオ番組・テレビ
番組の番組進行表、研究発表の研究発表進行表を
大会初日に提出できない場合は、事務局（札幌琴
似工業高等学校 前田）へ連絡の上、6月9日（火）
までに当番校（札幌龍谷学園高等学校 相蘇）へ
提出する。

番組制作について（詳細は全国大会の「番組部門規定 細則」参照）

https://hosokyoiku.jp/ncon_h/

（放送教育ネットワーク Web サイト内）高校放送コンテスト > 2026 年度第 73 回 > 要項



重要な内容です、必ずお読みください。（全国大会要項より）

番組制作は、著作物の創造です。制作者であるみなさんは、自分の著作物を勝手に使用されたり改変されたりしない権利を有しています。制作にあたって他者の権利を尊重し、著作権や肖像権等を守るのは、自分の権利を守るのと同じことです。制作者・情報発信者であるみなさんは、企画の段階からこの点に配慮し、必要な手続きをとって、取材や制作を進めてください。

☆各学校が公開のための手続きを必ず行ってください！

参加規程にある通り「放送コンテスト」ですので、放送（公開）することを前提としています。参加作品をNHKの地域放送や特集番組、Webサイトなどで公開したり、イベントや印刷物等に使用したりすることがあります。下記の「権利処理について」を参照し、手続きを行ってください。

コンテストでは円滑な作品発表を期すために上記の事項が既処理であることを確認の上運営する必要があります。作品提出時に、これらが既処理であることを示す書類も一緒に提出してください。**手続きが行われていない場合、審査・公開できないことがあります。**

毎回権利処理などの手続きは各学校が責任を持って行ってください。作品内で著作物を使用した場合は様式2-3（研究発表は様式4-3）で分かるように記入して、それぞれに必要な手続きをしてください。前回から様式2-6（研究発表は様式4-6）を提出物の一部としています。取材や編集する前に、この内容を確認してください。

☆権利処理について

1. 著作権

映像や画像、音楽、書籍など、自分以外の人々が創作したものを素材として使用する場合

- （1）オリジナルを創った人の許諾が必要です。
- （2）大きく映り込んだ登録商標や、音声での登録商標の表現等についても使用の可否を確認する必要があります。

2. 肖像権

他の人の顔や姿などを当該人物だと確認できる状態で使用する場合

- （1）基本的にその人（または保護者や管理者等）の許諾が必要です。本人の事情等で作品中への映り込みが問題となってしまう場合もあります。特に学童など本人が映り込みの可否を判断できない場合は、保護者や管理者の許諾を確実に得てください。
- （2）肖像権ではありませんが、他人の敷地内や施設内で無断で取材を行うなど、他人の権利を侵害することがあってはいけません。自校の行事等であっても、主催者（多くは学校長）の許諾が必要です。

3. その他（コンテストで発表して支障がないか）

誰かを誹謗中傷するものや残酷な内容、著しく反社会的な内容、公序良俗に反する内容などはコンテストへの出品内容としては適当ではありません。

☆手続きには時間がかかります

取材や著作物使用に関するすべての手続きは、**都道府県コンテスト（または都道府県が指示する地区コンテスト）までに完了してください。**

書類提出締切直前に著作物の使用許諾を申請することは、関係機関に多大な迷惑をかけ、コンテストに関わる全作品の許諾に支障が出る恐れもあります。まず、関係機関のWebサイトで手続きについて確認し、十分な余裕を持って申請を行ってください。必要な許諾書の提出が間に合わない場合、審査・公開できません。

*** 提出書類は必ず今年度の様式のことをダウンロードして確認してください ***

第 73 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト北海道大会 様式規定

以下の規定に従った様式をコンテストの Web サイト (https://hosokyoiku.jp/ncon_h/) よりダウンロードして、必要事項を記入して、大会初日の受付時に提出すること。

アナウンス部門・朗読部門

様式 1 に従って、アナウンスおよび朗読原稿を仕上がり A 5 判で 4 部（コピー可）作成して提出する。朗読部門の指定作品 1）～ 4）については原稿用紙に抽出部分の開始ページを記入する。

番組部門

(1) 番組進行表

様式 2-1、2-2、2-3、2-4、2-5、2-6、その他必要な書類を綴じたもの。以下の表の規定に従って必要事項を記入し、A 4 判で作成したものを左上で綴じた 3 部と、様式 2-1（番組進行表の表紙・制作意図・スタッフのページ）7 部を大会第 1 日目の公開抽選の際に提出する。（両面印刷はしない）

(2) テレビ部門テストパターン

指定のテストパターン（様式 3）を改変せずに使用する。テストパターンはコンテストの Web サイトから第 73 回大会のものをダウンロードすること。

番組進行表について（表中の◎の内容は必ず添付する）

◎様式 2-1 表紙 制作意図・あらすじ・スタッフ キャスト・確認欄	全国大会ではプログラムに掲載できるタイトルは全角 15 文字までとなる。制作意図は 200 字程度にまとめる。標準フォントにない記号は使わない。制作ドラマ部門：あらすじは結末まで入れて 400 字程度にまとめる。	
◎様式 2-2 CUE シート	作品に使用した著作物（様式 2-3 の権利処理一覧表に記入したもの）が、どこでどのように使用されたのかが一目でわかるように記入する。	
◎様式 2-3 権利処理一覧表	作品に使用した著作物（音楽・効果音・新聞・書籍・美術品・写真・パソコンソフト及びデータなど）と権利処理内容（取材場所・施設・イベント主催者など）をすべて一覧表に記載する。 これらは、著作権処理が不要のものであっても必ず記載する。また著作物を使用しない場合には、表中に大きく「なし」と記載する。	
音源を使用した場合	・様式 2-4 音源使用許諾申請書 音源使用申請に対する回答書	著作権隣接権がレコード会社にある音源を使用した場合には必ず添付する。様式 2-4 を使用しない場合は、使用を許諾された内容が記載された文書のコピーを必ず添付する。
	日本レコード協会の許諾証 著作権者からの使用許諾書のコピー	日本レコード協会の Web サイトで申請し、発行される許諾証を必ず添付する。JASRAC 管理の楽曲を使用した場合、JASRAC の録音利用許諾書のコピーを必ず添付する。それ以外の楽曲の場合は、使用を認められた内容が記載された文書のコピーを必ず添付する。
	著作権フリー 素材関連書類	著作権フリー素材を使用する場合は、素材のタイトル（曲名）が記された部分のコピーおよび使用条件が記載された文面（使用条件の記載箇所はジャケットとは限らないので注意）のコピーを必ず添付する。
・様式 2-5 音源以外の著作物の使用 取材の許諾など	取材にあたって許諾を必要とする場合は様式 2-5 を添付する。写真、画像等の著作物を使用する場合は許諾をとる。	
◎様式 2-6 提出前チェック表	全ての項目について内容を確認したうえで、代表生徒および顧問のチェックを記入する。項目に該当する内容がない場合は、斜線を記入する。	

* 「ご協力のお願い」は添付しないこと

※北海道高文連放送専門部で管理している「サウンドバンククラブ」の音源を使用する場合には、サウンドバンククラブのフリー使用条件を示した書類のコピーを必ず添付する。

研究発表部門

研究発表進行表（様式 4-1、4-2、4-3、4-4、4-5、4-6、その他必要な書類を綴じたもの）を作成し、A 4 判で作成したものを左上で綴じて 3 部提出を大会第 1 日目の公開抽選の際に提出する。（両面印刷はしない）

なお、様式 4-3、4-4、4-5 はそれぞれ様式 2-3、2-4、2-5 と同じ様式である。制作の方法については上記「番組進行表について」に準ずる。

「番組部門規定 細則」をダウンロードしてください。（https://hosokyoiku.jp/ncon_h/）



◆補足

①取材の留意点

- ・取材をする場合は、コメントやインタビューの音声・映像が番組に使われること、大会の会場で公開されること、全国上位に入賞した場合に、ラジオで放送される可能性があることについて、許諾を得ること。文書での許諾が必要な場合は様式2-5を使用。(文書の添付は不要)
- ・取材先には、全道入賞した場合、NHK札幌放送局のサイトでネット配信されることについて、可否の確認しておくこと。ネット配信が拒否されても、番組に使うことが許諾されていれば、その取材は番組に使うて良い。

②NHKクリエイティブ・ライブラリーについて

NHKクリエイティブ・ライブラリーは2025年9月30日で、提供を終了してはいますが、それまでにダウンロードした素材については引き続き使用できます。

③ラジオでの新聞・書籍の引用について

コンテスト委員会では、新聞・書籍等についてのラジオ番組の中での引用については、資料名をはっきりとコールし(作品と引用物の主従が逆転しないなど)引用とはっきりわかるようにすれば、許諾手続きは不要としている。しかし、新聞社によっては、引用でも許諾手続きを求める会社もあるため、ホームページ等で確認が必要。その場合、手続きにより入手した許諾書類を台本に添付すること。